

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

安全

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受してきました。近年の自動車業界の技術革新は目覚ましく、自動運転やそれを構成する安全技術は急速に進歩しつつあります。社会は大きな転換期を迎えていますが、クルマの技術革新は、都市における渋滞の解消や高齢者が安全で円滑に移動できる社会の実現など、さまざまな課題の解決に貢献することが期待されています。

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド(現実の世の中)における高い安全性を最優先に考えています。交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産が目指しているのは、日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」*です。この目標の実現に向けて、自動運転技術の搭載をはじめとするクルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者などに安全意識を高めてもらうための啓発活動、さらにはより安全で快適なモビリティ社会の構築に幅広く取り組んでいます。

▶▶ page_04

▶ 「ゼロ・フェイタリティ」の詳細を掲載しています

取り組みの柱

日産車がかかわる交通事故における死者数の1995年比低減率

〈2015年／日本〉

70% 減少

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

安全

CSRスコアカード

2016年度目標に対する達成度 ✓✓:達成 ✓:ほぼ達成 ×:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標と長期ビジョン	進捗確認指標	2015年実績	評価
技術の革新、安全運転の啓発活動による安全なクルマ社会の実現	日産車がかかわる交通事故死者数などの定量的低減目標を設定し、リアルワールドでの事故分析をもとに安全なクルマづくりと安全啓発活動を行う。究極の目標として、「ゼロ・フェイタリティ」を目指す	日産車がかかわる交通事故における死者数の1995年比低減率 *公共データをもとに算出するため、実績の把握は当該年度の約2年後	日産主要マーケット平均:58%減少 日本:70%減少 米国:45%減少 欧州(英国):78%減少 *2015年12月末時点	✓✓



▶▶ GRI G4 Indicators
▶▶ G4-PR1

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

安全への取り組み

安全に対する日産の方針は、リアルワールド(現実の世の中)における安全性を追求することであり、日産は「交通事故のない社会」を目指しています。

日本の2016年の交通事故による死者数は3,904人で前年より213人減少し、1949年以來の3,000人台となりました。

世界保健機関(WHO)は、世界全体で毎年約125万人が交通事故で命を落としており、今後緊急に対策をとらなければ2030年までには死亡原因の5位になると予測しています。

日産は、日産車がかかわる死者数を2015年までに1995年比で半減させることを目指し、日本、米国、欧州(英国)で達成。現在は、2020年までに日本、米国、欧州(英国)でさらに半減させるという高い目標に向かって活動を続けており、死者数を実質ゼロにすることが日産の究極の目標です。

交通事故を低減させ、日産の掲げた目標「ゼロ・フェイタリティ」を実現するには、クルマの安全技術を進化させ、その機能を多くのクルマに適用・拡大することはもちろん、人や交通環境も含む総合的な取り組みが必要です。真に安全なクルマ社会の構築に貢献するため、日産は「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」を推進しています。

日産の究極の目標:

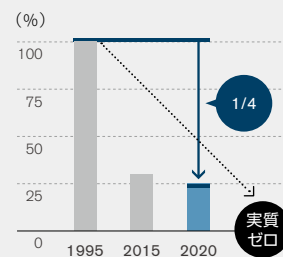
日産車のかかわる死者数を実質ゼロにする

日産の取り組み:

「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」

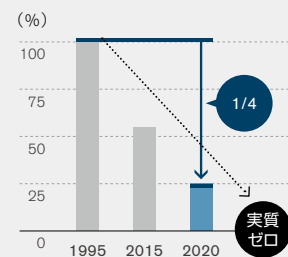


日本 日産車1万台当たりの死者数



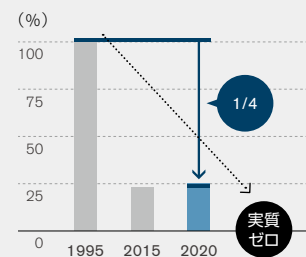
出所:公益財団法人交通事故総合分析センター

米国 日産車1万台当たりの死者数



出所: Fatality Analysis Reporting System

欧州 日産車1万台当たりの死者数



出所: STATS19 data, U.K. Department for Transport

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

クルマ：安全技術開発への取り組み

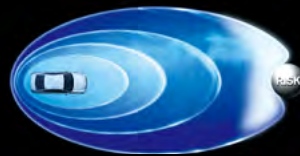
「セーフティ・シールド」という独自の考え方のもと、日産ではできるだけドライバーを危険に近づけないようにクルマが支援する技術開発を進めています。また、万が一衝突が避けられないときも、被害を軽減する技術を提供しています。

安全技術コンセプト「セーフティ・シールド」

日産は、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」を基本に、安全技術の開発を進めています。これは、クルマが置かれている状態を「危険が顕在化していない」「危険が顕在化している」「衝突するかもしれない」「衝突が避けられない」「衝突」「衝突後」の6段階に分けて捉え、各状況に応じてクルマが人を守るさまざまな技術の開発を進めていくという考え方です。

日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価(2016年度)

- 2015年1月に「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」の採用車種を拡大し、2015年度末には、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリーで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了。また、北米では、「セントラ」「アルティマ」「ローグ」などの主要車種に採用しています。さらに欧州でも「ジューク」「エクストレイル」「キャシュカイ」などの主要車種に加え、2017年3月に発売された新型「マイクラ」にも採用しています。
- 米国では、米国運輸省道路交通安全局(NHTSA)の新車アセスメントプログラム(US-NCAP)にてインフィニティ「QX60」、「アルティマ」「マキシマ」「パスファインダー」が最高評価となる5つ星を獲得。米国道路安全保険協会(IIHS)にて、「アルティマ」「マキシマ」「ローグ」が最高評価となる「2017トップセーフティピックアッププラス(TSP+)」を獲得(インテリジェント エマージェンシーブレーキ、LEDロービームヘッドライト搭載車)。
- 欧州では、欧州新車アセスメントプログラム(ユーロNCAP)にて、インフィニティ「Q30」が最高評価となる5つ星を獲得。

危険が顕在化していない ■インテリジェント ペダル ■インテリジェント クルーズコントロール (全車速追従・ナビ協調機能付) ■アクティブAFS ■インテリジェント アラウンドビューモニター	いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートする技術	
危険が顕在化している ■インテリジェント FCW ■レーンデパーチャーワーニング ■インテリジェント LI ■ブラインドスポットワーニング ■インテリジェント BSI ■インテリジェント BUI	危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートする技術	
衝突するかもしれない ■インテリジェント エマージェンシーブレーキ ■ABS(アンチロックブレーキシステム) ■VDC(ビークルダイナミクスコントロール)		
衝突が避けられない ■前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト		
衝突 ■ゾーンボディ ■SRSエアバッグシステム ■ポップアップエンジンフード	万が一衝突が避けられないときに被害を最小限にとどめる技術	
衝突後 ■エアバッグ展開連動ハザードランプ		

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

“ぶつからないクルマ”の実現に向けて

どんな運転環境にも必ずリスクがあります。「セーフティ・シールド」のコンセプトに基づいて、日産が運転中のリスクを検討し開発したのが、クルマの前方だけでなく側方や後方からの衝突をも回避するためのさまざまな支援システムです。日産は、リスクの芽をクルマがあらかじめ察知し、ドライバーに危険を知らせ、緊急時にはシステムが介入して事故を未然に防ぐ、予防運転安全技術の開発を通じて、より安全な運転をサポートします。

世界中すべての人に最適なモビリティを提供することを目標に掲げている日産は、安全技術を適用・拡大することも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

インフィニティ「Q50」(日本名:「スカイライン」)に搭載された日産初の全方位運転支援システム

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

ミリ波レーダーで前方車両との衝突の危険を察知すると、ディスプレイ表示やブザーに加え、アクセルペダルの反力と緩やかなブレーキングによる直感的な警報でドライバーに回避操作を促します。それでもドライバーが回避操作を行わない場合には、緊急ブレーキを作動させて衝突を回避、または被害を軽減します。

インテリジェント FCW(前方衝突予測警報)

2台前を走る車両との車間距離・相対速度をミリ波レーダーでモニタリング。自車からは見えない前方の状況の変化を検知し、減速が必要と判断した場合には、ディスプレイ表示とブザーによる警報でドライバーに注意を促します。



インテリジェント BSI(後側方衝突防止支援システム)

車両後部の左右に設置したサイドセンサーで、死角になりやすい後側の隣接レーンに位置する車両を検知。サイドミラー横のインジケーターで知らせます。隣接レーンに車両がいるにもかかわらずドライバーがレーンチェンジを開始すると、接触を回避するよう運転操作を支援します。



インテリジェント LI(車線逸脱防止支援システム)

ルーフコンソールに配置されたカメラで、自車前方のレーンマーカーとの相対位置を検出し、車両が車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断した場合には、表示とブザー音で注意を喚起、車両を車線内に戻す方向に力を短時間発生させ、ドライバーの操作を支援します。

▶ 前方、側方、後方、全方向での安全性能を高めた運転支援システムが日産初 (2013年11月現在、自社調べ)

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

インテリジェント BUI(後退時衝突防止支援システム)

車両後部の左右に設置したサイドセンサーと車両後部のソナーにより、後方を横切る車両を検知。サイドミラー横のインジケーターやバックビューモニターのディスプレイ上の表示と音でドライバーの注意を喚起します。さらにドライバーが後退しようとした場合、アクセルペダルの反力や自動ブレーキなどによる直感的な警報でドライバーに伝え、接近する車両との接触を回避するよう運転操作を支援します。



世界初となるBCI

インテリジェント アラウンドビューモニター(移動物検知機能付)

駐車時などで車両を上から見下ろしたような映像を表示します。さらに周囲の移動物を検知し、ディスプレイ上の表示と音でドライバーの注意を喚起します。

予防安全技術から自動運転技術へ

事故を回避するために必要な、センシング、認知・判断・操作という基本的な4つのステップを支援する予防安全技術の機能を拡充し、さらなる進化を目指したのが自動運転技術です。日産は、「交通事故ゼロ」の実現には、事故原因の9割以上といわれる人為的ミスをクルマがサポートする自動運転技術が有効であると考えています。

ミリ波レーダー、レーザーキャナー、カメラなどのセンサーを搭載した自動運転技術の実験車両は、周囲360度の状況を常に把握。他のクルマに遭遇すると、蓄積された知識データの中から人工知能がその場に応

じた適切な行動を選択します。信号機のない交差点への進入や駐車車両の追い越しなど、複雑な運転環境においても正しく状況を認知・判断し、安全な走行を実現しています。

高齢化や都市の過密化など多くの課題に直面する社会において、自動運転技術は事故の大幅な低減に貢献し、多くのドライバーに安心を提供するだけでなく、急速に増加する高齢者にとっては移動機会の拡大にもつながります。日産は、自動運転技術をモビリティに新たな価値をもたらす画期的な技術だと考え、積極的に開発を推進し、実用化を進めています。2016年8月には、高速道路上の同一車線で安全な自動運転を可能にする技術「プロパイロット」を新型「セレナ」に搭載しました。「プロパイロット」は、渋滞走行と長時間の巡航走行の2つのシーンで、アクセル、ブレーキ、ステアリングのすべてを自動で制御し、ドライバーの負担を軽減します。新型「セレナ」における、2016年8月の発売から2017年3月末までの「プロパイロット」装着率は54%で、約3万9,000台が同技術搭載車となっています。高速道路における複数レーンの自動運転は、2018年までに実用化する予定で、自動での車線変更が可能となります。市街地の自動運転は、2020年までの実現を見込んでいます。



自動運転技術の実験車両

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

人：交通安全活動の推進

より良いモビリティ社会を構築するためには、ドライバーや乗員、歩行者、自転車運転者など多くの人々に交通安全への考え方を理解してもらうことが大切です。日産では安全意識の向上に向けた啓発活動や、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも力を注いでいます。

日本

1日のうちで交通事故発生件数が最も多くなる時間帯は16～18時の夕暮れ時です。日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」^①の一環として、ヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」^②に2010年から取り組んでいます。



2016年度は、今までの活動を一層強化しました。また、「おもいやりライト運動」に賛同して伝道師として活動を広げてくれる人を増やしていくことを目的に、社会課題そのものに関心のある人や地域活動に興味を持っている人などを対象に、一人でも多くの賛同者を増やす活動を推進しました。

① 足立拓巳のおもいやり発見の旅：「おもいやりライト運動」の活動趣旨を全国に広めるために、横浜から山梨、静岡と時計回りに全国47都道府県、総走行距離1万900km（地球1周4万kmの4分の1に相当）を「日産リーフ」で走行。地域おこしやボランティアで活躍している人などと直接交流して、おもいやりのある活動を讃えました。地元メディアにも出演し1,124人と出会い、多くの人たちの賛同を得ることができました。



② ラウンジ・スイッチ：「おもいやりライト運動」に賛同し、伝道師として運動を広げてくれる人財の育成を目指して、自ら発案し、行動・発信する力を養成するスクールを開講しました。2016年6月から2017年2月まで7回開催し、毎回多彩な講師陣を招き、「おもいやりライト運動」の積極的な賛同者を広げることができました。



▶ website
① 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶ website
② 「おもいやりライト運動」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

④ ゆうがたカフェ：春と秋に開催した交流会。秋は11月10日「いい点灯の日」記念として、「おもいやりライト運動」に継続的に賛同・応援してくれる人や「足立拓巳のおもいやり発見の旅」で新しく出会った人、ラウンジ・スイッチ受講生などが一堂に介し、「おもいやりライト運動」を盛り上げました。

こうした活動を通じて、企業やNPO団体、クルマファンなどに理解と実行を促してきた結果、「おもいやりライト運動」は市民の間に広く浸透しつつあります。

米国

北米日産会社（NNA）は、米国で販売されているニッサンおよびインフィニティブランドの車両に適合するチャイルドシートの情報を幼い子供を持つ親などに提供する「スナッグ・キッズ」プログラムを2002年より実施しています。チャイルドシートの正しい使用を促す自動車業界初となる取り組みで、シートを前向き・後ろ向きに安全に取り付ける方法や、ブースタータイプのシートを取り付ける場合の安全な装着方法を指導しています。

また2012年より、安全運転の大切さを若い人々に伝えるための啓発プログラム「シンク・ファスト」のパートナーを務めています。司会者の進行によるゲーム形式のイベントで、テネシー州、ミシガン州、ミシSSIPPI州、テキサス州、アリゾナ州、カリフォルニア州の中学校や高校で、105以上のプログラムが実施されています。

さらに、子供をシートに正しく固定する方法を教える「チャイルド・パッセージャー・セーフティ・テクニシャン養成講座」やシートの点検方法を指導するイベントについても、テネシー州、ミシガン州、ミシSSIPPI州でパートナーを務めています。

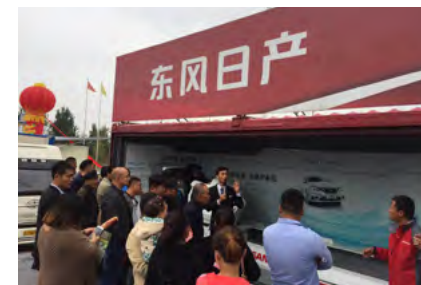


北米日産がパートナーとなっている「シンク・ファスト」

中国

中国では自動車の急速な普及に伴い、交通安全対策が大きな課題となっています。

東風日産乗用車公司（DFL-PV）は、お客さまに安全運転の大切さを伝え、その習慣を身につけてもらうため、交通安全がテーマのイベント「安全運転体験キャンプ360°」を開催し、ドライバーと一般市民を対象に講義や技能講習などさまざまな活動を実施、安全運転や万が一の際の応急処置に関する技術を指導しています。同イベントにはこれまで中国国内の400以上の都市から570万名以上が参加し、安全運転の重要性を学びました。



安全運転体験キャンプ360°

▶ スナッグ(snug)：サイズがぴったりで居心地がいいこと

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

また、2016年8月、日産(中国)投資有限公司(NCIC)は2007年より協力関係を深めてきた中国自動車技術研究センター(CATARC)と共同で、「第10回中国道路交通安全フォーラム」を北京において開催しました。同フォーラムには中国交通運輸部や国家安全生产监督管理局をはじめ、自動車メーカー、サプライヤー、国内外の大学や研究機関から200名以上が参加しました。

中東

アラブ首長国連邦(UAE)では、若年ドライバーによる運転中の携帯電話使用による交通事故が増加しています。中東日産会社(NMEF)は、同国において、大学生の交通安全に対する意識向上を図り、安全運転推進のけん引役になってもらうことを目指した、「アクダール★・ドライブ・セーフリー」プログラムに協力しています。2017年のテーマは、「運転中の携帯電話の使用」で、このプログラムに参加した大学生は、運転中の携帯電話の使用がいかに危険かを周知させるための「安全運転キャンペーン企画」「モバイルアプリ」「造形作品」のうちのどれかを提案。各カテゴリーの上位3名に選ばれた大学生には、賞金が贈られるとともに、NMEFのサポートを得てプロジェクトを実行する機会が与えられます。

▶ アクダール: UAEの副首相兼内務大臣であるサイフ・ビン・ザイード王子が主催し、各種の学生強化プログラムを実施する組織



南米

2016年10月、ホンジュラスにおいて、日産自動車株式会社(NML)の100%子会社である日産トレーディング株式会社が現地の販売会社Grupo Qの協力を得て、国際連合世界食糧計画(WFP)、国際連合開発計画(UNDP)、セーブ・ザ・チルドレン、赤十字社、ワールド・ビジョンといった、国際的な支援や開発を行う団体の職員を対象とした交通安全イベントを2日間にわたって開催しました。同イベントはオフロードにおける安全運転の推進を目的としたもので、参加者は、1日目にまず、座学で四輪駆動車の基本原理を学び、2日目にはオフロードコースで駆動形式やボディタイプ、グレードなどの異なる数種類の「NP300フロンティア」を使い、路面状況に合わせたギヤの操作方法を中心とした運転訓練を受けました。



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

新興国市場で「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」を開催

日産は、新興国市場における安全運転啓発活動の一環として「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」を実施し、一般のドライバーの安全運転への意識向上を図ってきました。

中国、インド、ロシアなどの国で、複数の都市を巡回しながら、体験型シミュレーターや安全技術の展示などのプログラムを通して、安全運転の重要性を伝えています。



ドライビングシミュレーター

国際自動車連盟と交通安全のためのパートナーシップを締結

日産は、2014年、国際自動車連盟(FIA)と世界規模で交通安全活動を推進していくパートナーシップを締結しました。このパートナーシップを通して、国連が提唱する「交通安全のための行動の10年」を支持するFIAの革新的な啓発活動「FIAアクションフォーロードセーフティ」*キャンペーンのオフィシャルサポーターとなっています。

同キャンペーンの一環として、安全運転のためのルールを記載した「FIAゴールドンルール」*を世界中で推進することにより、毎年数多く発生している交通事故による死者を減らすことに注力しています。キャンペーン賛同者は、「FIAオンラインプレッジ」*に署名をすることにより、安全運転ルールの順守を表明できます。

日産では「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」などで「FIAゴールドンルール」や「FIAオンラインプレッジ」の周知活動を実施。ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル株式会社(NISMO)のファン感謝イベント「ニスモフェスティバル(NISMO FESTIVAL)」では、フェスティバルの主役でもあるさまざまなクルマへのキャンペーンロゴ貼付や、コース上でのドライバーによる安全運転宣言など、多くの来場者に安全運転の大切さを訴えています。また、2015年のフェスティバルではクイズ形式のステージイベントを実施、2016年は専用ブースを設け、「FIAオンラインプレッジ」への署名を呼びかけました。



ニスモフェスティバル



▶ [website](#)

▶ 「FIAアクションフォーロードセーフティ」「FIAゴールドンルール」「FIAオンラインプレッジ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会：社会との連携

日産は、クルマを取り巻く交通環境の情報を利用することで、より安全なクルマ社会を築くことができると考えています。官公庁や大学、他企業と広く連携しながら、安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

高速道路上の逆走を報知するシステムを開発

近年、高速道路での逆走が多発しており、社会問題となっています。日産は西日本高速道路株式会社（NEXCO西日本）と共同研究を進め、GPSを活用した逆走報知ナビゲーションシステムを開発しました。ナビゲーション内部のプログラムにより、車両情報（GPS位置、地図、車速など）に基づいた逆走判定処理を行います。逆走している可能性があると判断した場合は、音声とナビゲーション画像によってドライバーに注意を喚起します。2010年10月に発売した「フーガ ハイブリッド」に世界で初めて搭載。現在では、幅広い車種で選択可能となっています。（世界初：日産自動車調べ。2010年10月現在）

自動運転技術を活用した完成車の無人搬送システムを導入

日産では搬送業務の合理化に向け、さまざまな活動を推進しています。2015年に試験運用を開始した「インテリジェント・ビークル・トローイング（Intelligent Vehicle Towing）」は、「日産リーフ」を改良し自動運転機能を搭載したけん引車と台車で構成されており、一度に最大3台の完成車を無人で搬送することが可能です。今後は、「インテリジェント・ビークル・トローイング」で得たデータやノウハウを自動運転技術のさらなる活用に向けて役立てることで、お客さま、そして社会に新しいソリューションを提供していきます。



インテリジェント・ビークル・トローイング

NASAの技術をベースに自動運転の人工知能(AI)をサポートする技術を開発

一般道路での完全自動運転実現に向けた課題解決のため、日産では「シームレス・オートノマス・モビリティ（SAM）」と呼ばれるシステムを開発しています。自動運転車による判断が困難な場合に管理者が遠隔操作でルートを作成・指示することで、事故、路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供します。

無人運転車によるモビリティ・サービスの実証実験

日産は無人運転車の開発を目的とした実証実験を株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）とともに開始します。第1フェーズとして、まず2017年から日本の国家戦略特区にて無人運転技術の開発に集中的に取り組みます。2020年までにはそのスコープを拡大し、首都圏にてモビリティ・サービスでの技術活用の検証を含んだ実証実験を行う計画です。